

厚生労働省発老0227第1号
令和8年2月27日

各

都道府県知事
指定都市市長
中核市市長
市区町村長

 殿

厚生労働事務次官
(公印省略)

「地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金の交付について」の
一部改正について

地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金の交付については、平成24年7月17日厚生労働省発老0717第2号本職通知の別紙「地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金交付要綱」（以下「交付要綱」という。）により行われているところであるが、今般、交付要綱の一部を別紙新旧対照表のとおり改正し、令和7年12月16日から適用することとしたので通知する。

「地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金の交付について」別紙新旧対照表（案）

新	旧
<p>別紙 地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金交付要綱</p> <p>1（略）</p> <p>（交付の目的）</p> <p>2 この交付金は、平成18年5月29日老発第0529001号厚生労働省老健局長通知の別紙「地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金実施要綱」（以下「実施要綱」という。）第2の1により市町村（指定都市、中核市を除く。）及び特別区（以下「市区町村」という）並びに指定都市及び中核市（以下「市町村等」という。）が作成した防災・減災等市町村事業整備計画及び実施要綱第3の1により都道府県並びに指定都市及び中核市（以下「都道府県等」という。）が作成した防災・減災等都道府県事業整備計画に基づく高齢者施設等の防災・減災対策及び新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を推進する施設及び設備等の整備事業（以下「施設等整備事業」という。）の実施に要する経費に充てるため、<u>市区町村及び都道府県等</u>に交付することにより、<u>地域における</u>防災・感染防止体制の強化に資することを目的とする。</p> <p>（交付の対象）</p> <p>3 この交付金は、実施要綱に基づき実施される次の事業を交付の対象とする。</p> <p>（1）実施要綱第2に定める市町村交付金 防災・減災等市町村事業整備計画に基づき、市町村等が実施する施設等整備事業、又は民間等の事業者が実施する施設等整備事業に対し市町村等が補助する事業</p> <p>（2）実施要綱第3に定める都道府県交付金 防災・減災等都道府県事業整備計画に基づき、都道府県等が実施する施設等整備事業、又は市町村等及び民間等の事業者が実施する施設等整備事業に対し都道府県等が補助する事業</p> <p>（交付金の対象除外）</p> <p>4 この交付金は、次に掲げる費用については、交付の対象としないものとする。 <u>（削る）</u></p> <p>（1）～（3）（略）</p>	<p>別紙 地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金交付要綱</p> <p>1（略）</p> <p>（交付の目的）</p> <p>2 この交付金は、平成18年5月29日老発第0529001号厚生労働省老健局長通知の別紙「地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金実施要綱」（以下「実施要綱」という。）第2及び第3により都道府県（指定都市及び中核市を含む。以下同じ。）及び市町村（指定都市、中核市及び特別区を含む。以下同じ。）が作成した防災・減災等事業整備計画に基づく事業の実施に要する経費に充てるため、都道府県及び市町村に交付することにより、<u>高齢者施設等の防災・減災対策及び新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を推進する施設及び設備等の整備事業（以下「施設等整備事業」という。）の実施により</u>防災・感染防止体制の強化に資することを目的とする。</p> <p>（交付の対象）</p> <p>3 この交付金は、実施要綱に基づき実施される次の事業を交付の対象とする。</p> <p>（1）実施要綱第2の1の（1）による防災・減災等市町村事業整備計画に基づき、市町村が実施する施設等整備事業、又は民間等の事業者が実施する施設等整備事業に対し市町村が補助する事業</p> <p>（2）実施要綱第3の1の（1）による防災・減災等都道府県事業整備計画に基づき、都道府県が実施する施設等整備事業、又は民間等の事業者が実施する施設等整備事業に対し都道府県が補助する事業</p> <p>（交付金の対象除外）</p> <p>4 この交付金は、次に掲げる費用については、交付の対象としないものとする。 <u>施設等整備事業</u></p> <p>（1）～（3）（略）</p>

(交付額の算定方法)

5 この交付金の交付額は、次により算出するものとする。

(1) 防災・減災等事業支援特例交付金（防災・減災等市町村事業整備計画に係る分）

防災・減災等市町村事業整備計画に記載された実施要綱第2の2に掲げる事業につき、次の表の第1欄に定める区分ごとに第3欄に定める対象経費の実支出額と第2欄に定める基準額とを比較して少ない方の額と、総事業費から寄付金その他の収入額（社会福祉法人等の営利を目的としない法人の場合は、寄付金収入額を除く。以下同じ。）を控除した額とを比較して少ない方の額に第4欄に定める交付率を乗じて得た額（ただし、交付率を乗じて得た額に1,000円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てるものとする。）の合計額を交付額とする。

1 区分	2 基準額	3 対象経費	4 交付率
既存の小規模高齢者施設等のスプリンクラー設備等整備事業	実施要綱の第2の3に基づく算定方法により、厚生労働大臣が必要と認められた額	防災・減災等市町村事業整備計画に基づく既存の小規模高齢者施設等のスプリンクラー設備等の整備事業（施設の整備と一体的に整備されるものであって、当該区域を管轄する地方厚生局長（徳島県、香川県、愛媛県及び高知県にあっては四国厚生支局長。以下「地方厚生（支）局長」という。）が必要と認められた整備を含む。）に必要な工事費又は工事請負費及び工事事務費（工事施工のため直接必要な事務に要する費用であって、旅費、消耗品費、通信運搬費、印刷製本費及び設計監督料等をいい、その額は、工事費又は工事請負費の2.6%に相当する額を限度額とする。）。 ただし、別の負担（補助）金等において別途補助対象とする費用を除き、工事費又は工事請負費には、これと同等と認められる委託費、分担金及び適当と認められる購入費等を含む。	10/10
認知症高齢者グループホーム等の防災改修等支援事業	実施要綱の第2の3に基づく算定方法により、厚生労働大臣が必要と認められた額	防災・減災等市町村事業整備計画に基づく認知症高齢者グループホーム等の防災改修等支援事業（施設の整備と一体的に整備されるものであって、地方厚生（支）局長が必要と認められた整備を含む。）に必要な工事費又は工事請負費及び工事事務費（工事施工のため直接必要な事務に要する費用であって、旅費、消耗品費、通信運搬費、印刷製本費及び設計監督料等をいい、その額は、工事費又は工事請負費の2.6%に相当する額を限度額とする。）。 ただし、別の負担（補助）金等において別途補助対象とする費用を除き、工事費又は工事請負費には、これと同等と認められる委託費、分担金及び適当と認められる購入費等を含む。	10/10
高齢者施設等の給水設備	実施要綱の第2の3に基づく	防災・減災等市町村事業整備計画に基づく高齢者施設等の給水設備整備事業（施設の整備と	1/2

(交付額の算定方法)

5 この交付金の交付額は、次により算出するものとする。ただし、交付額に1,000円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てるものとする。

(1) 防災・減災等事業支援特例交付金（既存の小規模高齢者施設等のスプリンクラー設備等整備事業、認知症高齢者グループホーム等防災改修等支援事業及び高齢者施設等における換気設備の設置に係る経費支援事業に係る分）

防災・減災等事業支援特例交付金及び防災・減災等市町村事業整備計画（以下「防災・減災等事業整備計画」という。）に記載された事業につき、次の表の第1欄に定める区分ごとに第3欄に定める対象経費の実支出額と第2欄に定める基準額とを比較して少ない方の額と、総事業費から寄付金その他の収入額（社会福祉法人等の営利を目的としない法人の場合は、寄付金収入額を除く。以下同じ。）を控除した額とを比較して少ない方の額の合計額を交付額とする。

1 区分	2 基準額	3 対象経費
既存の小規模高齢者施設等においてスプリンクラー設備を整備する事業	実施要綱の第2の3及び第3の3に基づく算定方法により、厚生労働大臣が必要と認められた額	防災・減災等事業整備計画に基づく既存の小規模高齢者施設等におけるスプリンクラー設備等の整備（施設の整備と一体的に整備されるものであって、地方厚生（支）局長が必要と認められた整備を含む。）に必要な工事費又は工事請負費及び工事事務費（工事施工のため直接必要な事務に要する費用であって、旅費、消耗品費、通信運搬費、印刷製本費及び設計監督料等をいい、その額は、工事費又は工事請負費の2.6%に相当する額を限度額とする。）。 ただし、別の負担（補助）金等において別途補助対象とする費用を除き、工事費又は工事請負費には、これと同等と認められる委託費、分担金及び適当と認められる購入費等を含む。
認知症高齢者グループホーム等における利用者等の安全性確保の観点から行う防災改修等実施する事業	実施要綱の第2の3に基づく算定方法により、厚生労働大臣が必要と認められた額	防災・減災等事業整備計画に基づく認知症高齢者グループホーム等防災改修等支援事業（施設の整備と一体的に整備されるものであって、地方厚生（支）局長が必要と認められた整備を含む。）に必要な工事費又は工事請負費及び工事事務費（工事施工のため直接必要な事務に要する費用であって、旅費、消耗品費、通信運搬費、印刷製本費及び設計監督料等をいい、その額は、工事費又は工事請負費の2.6%に相当する額を限度額とする。）。 ただし、別の負担（補助）金等において別途補助対象とする費用を除き、工事費又は工事請負費には、これと同等と認められる委託費、分担金及び適当と認められる購入費等を含む。
(新設)	(新設)	(新設)

整備事業	算定方法により、厚生労働大臣が必要と認められた額	一体的に整備されるものであって、地方厚生（支）局長が必要と認めた整備を含む。）に必要な工事費又は工事請負費及び工事事務費（工事施工のため直接必要な事務に要する費用であって、旅費、消耗品費、通信運搬費、印刷製本費及び設計監督料等をいい、その額は、工事費又は工事請負費の2.6%に相当する額を限度額とする。）。 ただし、別の負担（補助）金等において別途補助対象とする費用を除き、工事費又は工事請負費には、これと同等と認められる委託費、分担金及び適当と認められる購入費等を含む。	
高齢者施設等のブロック塀等改修整備事業	実施要綱の第2の3に基づく算定方法により、厚生労働大臣が必要と認められた額	防災・減災等市町村事業整備計画に基づく高齢者施設等のブロック塀等改修整備事業（施設の整備と一体的に整備されるものであって、地方厚生（支）局長が必要と認めた整備を含む。）に必要な工事費又は工事請負費及び工事事務費（工事施工のため直接必要な事務に要する費用であって、旅費、消耗品費、通信運搬費、印刷製本費及び設計監督料等をいい、その額は、工事費又は工事請負費の2.6%に相当する額を限度額とする。）。 ただし、別の負担（補助）金等において別途補助対象とする費用を除き、工事費又は工事請負費には、これと同等と認められる委託費、分担金及び適当と認められる購入費等を含む。	1/2
高齢者施設等の換気設備整備事業	実施要綱の第2の3に基づく算定方法により、厚生労働大臣が必要と認められた額	防災・減災等市町村事業整備計画に基づく高齢者施設等の換気設備整備事業（施設の整備と一体的に整備されるものであって、地方厚生（支）局長が必要と認めた整備を含む。）に必要な工事費又は工事請負費及び工事事務費（工事施工のため直接必要な事務に要する費用であって、旅費、消耗品費、通信運搬費、印刷製本費及び設計監督料等をいい、その額は、工事費又は工事請負費の2.6%に相当する額を限度額とする。）。 ただし、別の負担（補助）金等において別途補助対象とする費用を除き、工事費又は工事請負費には、これと同等と認められる委託費、分担金及び適当と認められる購入費等を含む。	10/10

(2) 防災・減災等事業支援特例交付金（防災・減災等都道府県事業整備計画に係る分）

防災・減災等都道府県事業整備計画に記載された事業につき、次の表の第1欄に定める区分ごとに第3欄に定める対象経費の実支出額と第2欄に定める基準額とを比較して少ない方の額と、総事業費から寄付金その他の収入額（社会福祉法人の営利を目的としない法人の場合は、寄付金収入額を除く。以下同じ。）を控除した額とを比較して少ない方の額に第4欄に定める交付率を乗じて得た

(新設)	(新設)	(新設)	
高齢者施設等における換気設備の設置に係る経費支援事業	実施要綱の第2の3及び第3の3に基づく算定方法により、厚生労働大臣が必要と認められた額	防災・減災等事業整備計画に基づく高齢者施設等における換気設備の設置に係る経費支援事業（施設の整備と一体的に整備されるものであって、地方厚生（支）局長が必要と認めた整備を含む。）に必要な工事費又は工事請負費及び工事事務費（工事施工のため直接必要な事務に要する費用であって、旅費、消耗品費、通信運搬費、印刷製本費及び設計監督料等をいい、その額は、工事費又は工事請負費の2.6%に相当する額を限度額とする。）。 ただし、別の負担（補助）金等において別途補助対象とする費用を除き、工事費又は工事請負費には、これと同等と認められる委託費、分担金及び適当と認められる購入費等を含む。	

(2) 防災・減災等事業支援特例交付金（社会福祉連携法人等における防災改修等支援事業、高齢者施設等の非常用自家発電設備整備事業、高齢者施設等の水害対策強化事業、高齢者施設等の給水設備整備事業及び高齢者施設等の防犯対策・安全対策強化事業に係る分）

防災・減災等事業整備計画に記載された事業につき、次の表の第1欄に定める区分ごとに第3欄に定める対象経費の実支出額と第2欄に定める基準額とを比較して少ない方の額と、総事業費から寄付金その他の収入額（社会福祉法人の営利を目的としない法人の場合は、寄付金収入額を除く。以下同じ。）を控除した額とを比較して少ない方の額に補助率2分の1を乗じて得た額を交付額とす

額（ただし、交付率を乗じて得た額に1,000円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てるものとする。）の合計額を交付額とする。

1 区分	2 基準額	3 対象経費	4 交付率
既存の小規模高齢者施設等のスプリンクラー設備等整備事業	実施要綱の第3の3に基づく算定方法により、厚生労働大臣が必要と認めた額	防災・減災等都道府県事業整備計画に基づく既存の小規模高齢者施設等のスプリンクラー設備等整備事業（施設の整備と一体的に整備されるものであって、地方厚生（支）局長が必要と認めた整備を含む。）に必要な工事費又は工事請負費及び工事事務費（工事施工のため直接必要な事務に要する費用であって、旅費、消耗品費、通信運搬費、印刷製本費及び設計監督料等をいい、その額は、工事費又は工事請負費の2.6%に相当する額を限度額とする。）。 ただし、別の負担（補助）金等において別途補助対象とする費用を除き、工事費又は工事請負費には、これと同等と認められる委託費、分担金及び適当と認められる購入費等を含む。	10/10
社会福祉連携推進法人等に属する高齢者施設等の大規模修繕等支援事業	実施要綱の第3の3に基づく算定方法により、厚生労働大臣が必要と認めた額	防災・減災等都道府県事業整備計画に基づく社会福祉連携推進法人等に属する高齢者施設等の大規模修繕等支援事業（施設の整備と一体的に整備されるものであって、地方厚生（支）局長が必要と認めた整備を含む。）に必要な工事費又は工事請負費及び工事事務費（工事施工のため直接必要な事務に要する費用であって、旅費、消耗品費、通信運搬費、印刷製本費及び設計監督料等をいい、その額は、工事費又は工事請負費の2.6%に相当する額を限度額とする。）。 ただし、別の負担（補助）金等において別途補助対象とする費用を除き、工事費又は工事請負費には、これと同等と認められる委託費、分担金及び適当と認められる購入費等を含む。	1/2
国土強靱化対策と一体的に行う大規模修繕等支援事業	実施要綱の第3の3に基づく算定方法により、厚生労働大臣が必要と認めた額	防災・減災等都道府県事業整備計画に基づく国土強靱化対策と一体的に行う大規模修繕等支援事業（施設の整備と一体的に整備されるものであって、地方厚生（支）局長が必要と認めた整備を含む。）に必要な工事費又は工事請負費及び工事事務費（工事施工のため直接必要な事務に要する費用であって、旅費、消耗品費、通信運搬費、印刷製本費及び設計監督料等をいい、その額は、工事費又は工事請負費の2.6%に相当する額を限度額とする。）。 ただし、別の負担（補助）金等において別途補助対象とする費用を除き、工事費又は工事請負費には、これと同等と認められる委託費、分担金及び適当と認められる購入費等を含む。	1/3
高齢者施設等の非常用自家発電設備整備事業	実施要綱の第3の3に基づく算定方法により、厚生労働大臣が必要と認めた額	防災・減災等都道府県事業整備計画に基づく高齢者施設等の非常用自家発電設備整備事業（施設の整備と一体的に整備されるものであって、地方厚生（支）局長が必要と認めた整備を含む。）に必要な工事費又は工事請負費及び工事事務費（工事施工のため直接必要な事務に要する費用であって、旅費、消耗品費、通信運搬費、印刷製本費及び設計監督料等をいい、その	1/2

る。

1 区分	2 基準額	3 対象経費	4 補助率
(新設)	(新設)	(新設)	(新設)
社会福祉連携推進法人等に属する高齢者施設等の防災改修支援事業	実施要綱の第2の3及び第3の3に基づく算定方法により、厚生労働大臣が必要と認めた額	防災・減災等事業整備計画に基づく社会福祉法人等における防災改修等支援事業（施設の整備と一体的に整備されるものであって、地方厚生（支）局長が必要と認めた整備を含む。）に必要な工事費又は工事請負費及び工事事務費（工事施工のため直接必要な事務に要する費用であって、旅費、消耗品費、通信運搬費、印刷製本費及び設計監督料等をいい、その額は、工事費又は工事請負費の2.6%に相当する額を限度額とする。）。 ただし、別の負担（補助）金等において別途補助対象とする費用を除き、工事費又は工事請負費には、これと同等と認められる委託費、分担金及び適当と認められる購入費等を含む。	1/2
(新設)	(新設)	(新設)	
高齢者施設等の非常用自家発電設備整備事業	実施要綱の第3の3に基づく算定方法により、厚生労働大臣が必要と認めた額	防災・減災等事業整備計画に基づく高齢者施設等の非常用自家発電設備整備事業（施設の整備と一体的に整備されるものであって、地方厚生（支）局長が必要と認めた整備を含む。）に必要な工事費又は工事請負費及び工事事務費（工事施工のため直接必要な事務に要する費用であって、旅費、消耗品費、通信運搬費、印刷製本費及び設計監督料等をいい、その額は、工	1/2

		額は、工事費又は工事請負費の2.6%に相当する額を限度額とする。) ただし、別の負担(補助)金等において別途補助対象とする費用を除き、工事費又は工事請負費には、これと同等と認められる委託費、分担金及び適当と認められる購入費等を含む。	
高齢者施設等の水害対策強化事業	実施要綱の第3の3に基づく算定方法により、厚生労働大臣が必要と認められた額	防災・減災等都道府県事業整備計画に基づく高齢者施設等の水害対策強化事業(施設の整備と一体的に整備されるものであって、地方厚生(支)局長が必要と認めた整備を含む。)に必要な工事費又は工事請負費及び工事事務費(工事施工のため直接必要な事務に要する費用であって、旅費、消耗品費、通信運搬費、印刷製本費及び設計監督料等をいい、その額は、工事費又は工事請負費の2.6%に相当する額を限度額とする。) ただし、別の負担(補助)金等において別途補助対象とする費用を除き、工事費又は工事請負費には、これと同等と認められる委託費、分担金及び適当と認められる購入費等を含む。	1/2
高齢者施設等の給水設備整備事業	実施要綱の第3の3に基づく算定方法により、厚生労働大臣が必要と認められた額	防災・減災等都道府県事業整備計画に基づく高齢者施設等の給水設備整備事業(施設の整備と一体的に整備されるものであって、地方厚生(支)局長が必要と認めた整備を含む。)に必要な工事費又は工事請負費及び工事事務費(工事施工のため直接必要な事務に要する費用であって、旅費、消耗品費、通信運搬費、印刷製本費及び設計監督料等をいい、その額は、工事費又は工事請負費の2.6%に相当する額を限度額とする。) ただし、別の負担(補助)金等において別途補助対象とする費用を除き、工事費又は工事請負費には、これと同等と認められる委託費、分担金及び適当と認められる購入費等を含む。	1/2
高齢者施設等のブロック塀等改修整備事業	実施要綱の第3の3に基づく算定方法により、厚生労働大臣が必要と認められた額	防災・減災等都道府県事業整備計画に基づく高齢者施設等のブロック塀等改修整備事業(施設の整備と一体的に整備されるものであって、地方厚生(支)局長が必要と認めた整備を含む。)に必要な工事費又は工事請負費及び工事事務費(工事施工のため直接必要な事務に要する費用であって、旅費、消耗品費、通信運搬費、印刷製本費及び設計監督料等をいい、その額は、工事費又は工事請負費の2.6%に相当する額を限度額とする。) ただし、別の負担(補助)金等において別途補助対象とする費用を除き、工事費又は工事請負費には、これと同等と認められる委託費、分担金及び適当と認められる購入費等を含む。	1/2
高齢者施設等の換気設備整備事業	実施要綱の第3の3に基づく算定方法により、厚生労働大臣が必要と認められた額	防災・減災等都道府県事業整備計画に基づく高齢者施設等の換気設備整備事業(施設の整備と一体的に整備されるものであって、地方厚生(支)局長が必要と認めた整備を含む。)に必要な工事費又は工事請負費及び工事事務費(工事施工のため直接必要な事務に要する費用であって、旅費、消耗品費、通信運搬費、印刷製本費及び設計監督料等をいい、その額は、工事費又は工事請負費の2.6%に相当する額を限度額とする。)	10/10

		事費又は工事請負費の2.6%に相当する額を限度額とする。) ただし、別の負担(補助)金等において別途補助対象とする費用を除き、工事費又は工事請負費には、これと同等と認められる委託費、分担金及び適当と認められる購入費等を含む。	
高齢者施設等の水害対策強化事業	実施要綱の第2の3及び第3の3に基づく算定方法により、厚生労働大臣が必要と認められた額	防災・減災等事業整備計画に基づく高齢者施設等の水害対策強化事業(施設の整備と一体的に整備されるものであって、地方厚生(支)局長が必要と認めた整備を含む。)に必要な工事費又は工事請負費及び工事事務費(工事施工のため直接必要な事務に要する費用であって、旅費、消耗品費、通信運搬費、印刷製本費及び設計監督料等をいい、その額は、工事費又は工事請負費の2.6%に相当する額を限度額とする。) ただし、別の負担(補助)金等において別途補助対象とする費用を除き、工事費又は工事請負費には、これと同等と認められる委託費、分担金及び適当と認められる購入費等を含む。	1/2
高齢者施設等の給水設備整備事業	実施要綱の第2の3及び第3の3に基づく算定方法により、厚生労働大臣が必要と認められた額	防災・減災等事業整備計画に基づく高齢者施設等の給水設備整備事業(施設の整備と一体的に整備されるものであって、地方厚生(支)局長が必要と認めた整備を含む。)に必要な工事費又は工事請負費及び工事事務費(工事施工のため直接必要な事務に要する費用であって、旅費、消耗品費、通信運搬費、印刷製本費及び設計監督料等をいい、その額は、工事費又は工事請負費の2.6%に相当する額を限度額とする。) ただし、別の負担(補助)金等において別途補助対象とする費用を除き、工事費又は工事請負費には、これと同等と認められる委託費、分担金及び適当と認められる購入費等を含む。	1/2
高齢者施設等の防犯対策及び安全対策を強化するために必要な経費を支援する事業	実施要綱の第2の3及び第3の3に基づく算定方法により、厚生労働大臣が必要と認められた額	防災・減災等事業整備計画に基づく高齢者施設等の防犯対策及び安全対策強化事業(施設の整備と一体的に整備されるものであって、地方厚生(支)局長が必要と認めた整備を含む。)に必要な工事費又は工事請負費及び工事事務費(工事施工のため直接必要な事務に要する費用であって、旅費、消耗品費、通信運搬費、印刷製本費及び設計監督料等をいい、その額は、工事費又は工事請負費の2.6%に相当する額を限度額とする。) ただし、別の負担(補助)金等において別途補助対象とする費用を除き、工事費又は工事請負費には、これと同等と認められる委託費、分担金及び適当と認められる購入費等を含む。	1/2
(新設)	(新設)	(新設)	

		額とする。) ただし、別の負担(補助)金等において別途補助対象とする費用を除き、工事費又は工事請負費には、これと同等と認められる委託費、分担金及び適当と認められる購入費等を含む。	
--	--	--	--

6 (略)

(交付の条件)

7 この交付金の交付の決定には、次の条件が付されるものとする。

- (1) 防災・減災等市町村事業整備計画及び防災・減災等都道府県事業整備計画(以下「整備計画」という。)の内容を変更(軽微な変更を除く。)する場合には、速やかに地方厚生(支)局長の承認を受けなければならない。
- (2) 整備計画を中止し、又は廃止する場合には、速やかに地方厚生(支)局長の承認を受けなければならない。
- (3) 整備計画が予定期間内に完了しない場合又は整備計画の遂行が困難になった場合には、速やかに地方厚生(支)局長に報告してその指示を受けなければならない。
- (4) この交付金を受けて都道府県等又は市町村等が事業を実施する場合には、次の条件が付されるものとする。

ア～エ (略)

オ この交付金と整備計画に基づく事業に係る予算及び決算との関係を明らかにした別紙3の様式による調書を作成するとともに、事業に係る歳入及び歳出について証拠書類を整理し、かつ当該調書及び証拠書類を交付金の額の確定の日(整備計画の中止又は廃止の承認を受けた場合には、その承認を受けた日)の属する年度の終了後5年間保管しておかなければならない。ただし、事業により取得し、又は効用の増加した単価50万円以上の財産がある場合は、前記の期間を経過後、当該財産の財産処分が完了する日、又は適化法施行令第14条第1項第2号の規定により厚生労働大臣が別に定める期間を経過する日のいずれか遅い日まで保管しておかなければならない。

カ～キ (略)

- (5) 都道府県等又は市町村等が、市町村又は民間等の事業者が実施する事業(以下「補助事業」という。)に対してこの交付金を財源の全部若しくは一部として補助金を交付する場合には、次の条件を付さなければならない。

ア (4)のイ、ウ、カ及びキに掲げる条件。

この場合において「地方厚生(支)局長」とあるのは「都道府県知事、指定都市若しくは中核市又は市区町村の長」と、「国庫」とあるのは

--	--	--	--

6 (略)

(交付の条件)

7 この交付金の交付の決定には、次の条件が付されるものとする。

- (1) 防災・減災等事業整備計画の内容を変更(軽微な変更を除く。)する場合には、速やかに地方厚生(支)局長の承認を受けなければならない。
- (2) 防災・減災等事業整備計画を中止し、又は廃止する場合には、速やかに地方厚生(支)局長の承認を受けなければならない。
- (3) 防災・減災等事業整備計画が予定期間内に完了しない場合又は防災・減災等事業整備計画の遂行が困難になった場合には、速やかに地方厚生(支)局長に報告してその指示を受けなければならない。
- (4) この交付金を受けて都道府県(又は市町村)が事業を実施する場合には、次の条件が付されるものとする。

ア～エ (略)

オ この交付金と防災・減災等事業整備計画に基づく事業に係る予算及び決算との関係を明らかにした別紙3の様式による調書を作成するとともに、事業に係る歳入及び歳出について証拠書類を整理し、かつ当該調書及び証拠書類を交付金の額の確定の日(防災・減災等事業整備計画の中止又は廃止の承認を受けた場合には、その承認を受けた日)の属する年度の終了後5年間保管しておかなければならない。ただし、補助事業により取得し、又は効用の増加した単価50万円以上の財産がある場合は、前記の期間を経過後、当該財産の財産処分が完了する日、又は適化法施行令第14条第1項第2号の規定により厚生労働大臣が別に定める期間を経過する日のいずれか遅い日まで保管しておかなければならない。

カ～キ (略)

- (5) 都道府県(又は市町村)が、民間等の事業者が実施する事業(以下「補助事業」という。)に対してこの交付金を財源の全部若しくは一部として補助金を交付する場合には、次の条件を付さなければならない。

ア (4)のイ、ウ、カ及びキに掲げる条件。

この場合において「地方厚生(支)局長」とあるのは「都道府県知事、(又は市町村長)」と、「国庫」とあるのは「都道府県(又は市町村)」と、

「都道府県等又は市町村等」と、「事業」とあるのは「補助事業」と、「交付金」とあるのは「補助金」と読み替えるものとする。

イ 補助事業の内容を変更（軽微な変更を除く。）する場合には、速やかに都道府県知事、指定都市若しくは中核市又は市区町村の長の承認を受けなければならない。

ウ 補助事業を中止し、又は廃止する場合には、速やかに都道府県知事、指定都市若しくは中核市又は市区町村の長の承認を受けなければならない。

エ 補助事業が予定の期間内に完了しない場合又は補助事業の遂行が困難になった場合には、速やかに都道府県知事、指定都市若しくは中核市又は市区町村の長に報告してその指示を受けなければならない。

オ 補助事業により取得し、又は効用の増加した不動産及びその従物並びに補助事業により取得し、又は効用の増加した単価30万円以上の機械、器具及びその他の財産については、適化法施行令第14条第1項第2号の規定により厚生労働大臣が別に定める期間を経過するまで、都道府県知事、指定都市若しくは中核市又は市区町村の長の承認を受けないでこの補助金の交付の目的に反して使用し、譲渡し、交換し、貸し付け、担保に供し、取壊し、又は廃棄してはならない。

カ 補助事業完了後に消費税及び地方消費税の申告によりこの補助金にかかる消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額が確定した場合（仕入控除税額が0円の場合を含む。）は、別紙5の様式に準じて速やかに、遅くとも補助事業完了日の属する年度の翌々年度の6月30日までに都道府県知事、指定都市若しくは中核市又は市区町村の長に報告しなければならない。なお、補助事業を実施する者（以下「補助事業者」という。）が全国的に事業を展開する組織の支部（又は一支社、一支所等）であって、自ら消費税及び地方消費税の申告を行わず、本部（又は本社、本所等）で消費税及び地方消費税の申告を行っている場合は、本部の課税売上割合等の申告内容に基づき報告を行うこと。また、補助金に係る仕入控除税額があることが確定した場合には、当該仕入控除税額を都道府県等又は市町村等に返還しなければならない。

キ～ク（略）

ケ 補助事業者が補助事業を行うために締結する契約については、一般競争入札に付するなど、都道府県等又は市町村等が行う契約手続の取扱いに準拠しなければならない。

(6) (5)により付した条件（イ及びウを除く。）に基づき都道府県知事、指定都市若しくは中核市又は市区町村の長が承認又は指示する場合には、あらかじめ地方厚生（支）局長の承認又は指示を受けなければならない。

(7)～(8)（略）

「事業」とあるのは「補助事業」と、「交付金」とあるのは「補助金」と読み替えるものとする。

イ 補助事業の内容を変更（軽微な変更を除く。）する場合には、速やかに都道府県知事（又は市町村長）の承認を受けなければならない。

ウ 補助事業を中止し、又は廃止する場合には、速やかに都道府県知事（又は市町村長）の承認を受けなければならない。

エ 補助事業が予定の期間内に完了しない場合又は補助事業の遂行が困難になった場合には、速やかに都道府県知事（又は市町村長）に報告してその指示を受けなければならない。

オ 補助事業により取得し、又は効用の増加した不動産及びその従物並びに補助事業により取得し、又は効用の増加した単価30万円以上の機械、器具及びその他の財産については、適化法施行令第14条第1項第2号の規定により厚生労働大臣が別に定める期間を経過するまで、都道府県知事（又は市町村長）の承認を受けないでこの補助金の交付の目的に反して使用し、譲渡し、交換し、貸し付け、担保に供し、取壊し、又は廃棄してはならない。

カ 補助事業完了後に消費税及び地方消費税の申告によりこの補助金にかかる消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額が確定した場合（仕入控除税額が0円の場合を含む。）は、別紙5の様式に準じて速やかに、遅くとも補助事業完了日の属する年度の翌々年度の6月30日までに都道府県知事（又は市町村長）に報告しなければならない。なお、補助事業を実施する者（以下「補助事業者」という。）が全国的に事業を展開する組織の支部（又は一支社、一支所等）であって、自ら消費税及び地方消費税の申告を行わず、本部（又は本社、本所等）で消費税及び地方消費税の申告を行っている場合は、本部の課税売上割合等の申告内容に基づき報告を行うこと。また、補助金に係る仕入控除税額があることが確定した場合には、当該仕入控除税額を都道府県（又は市町村）に返還しなければならない。

キ～ク（略）

ケ 補助事業者が補助事業を行うために締結する契約については、一般競争入札に付するなど、都道府県（又は市町村）が行う契約手続の取扱いに準拠しなければならない。

(6) (5)により付した条件（イ及びウを除く。）に基づき都道府県（又は市町村）の長が承認又は指示する場合には、あらかじめ地方厚生（支）局長の承認又は指示を受けなければならない。

(7)～(8)（略）

(申請手続)

- 8 この交付金の交付の申請は、次により行うものとする。
都道府県知事、指定都市若しくは中核市又は市区町村の長は、別紙1の様式による申請書を作成し、別に定める日までに地方厚生(支)局長に提出するものとする。

(変更申請手続)

- 9 この交付金の交付決定後の事情の変更により申請の内容を変更して追加交付申請等を行う場合には、8に定める申請手続に従い、別に定める日までに行うものとする。

(交付決定までの標準的期間)

- 10 この交付金の交付の決定までの標準的期間は、次のとおりとする。
地方厚生(支)局長は、8又は9による申請書が到達した日から起算して原則として2月以内に交付の決定(決定の変更を含む。)を行うものとする。

(実績報告)

- 11 この交付金の事業実績報告は、次により行うものとする。
都道府県知事、指定都市若しくは中核市又は市区町村の長は、別紙2の様式による報告書に関係書類を添えて、事業の完了の日から起算して1月を経過した日(7の(2)により整備計画の中止又は廃止の承認を受けた場合には、当該承認通知を受理した日から起算して1月を経過した日)又は翌年度4月10日のいずれか早い日までに、地方厚生(支)局長に提出して行うものとする。
なお、事業が翌年度にわたるときは、この交付金の交付の決定に係る国の会計年度の翌年度の4月30日までに、別紙4の様式による報告書を地方厚生(支)局長に提出して行うものとする。

12~13 (略)

別紙1 (略)
別紙(1)-1 (略)

別紙(1)-2

(申請手続)

- 8 この交付金の交付の申請は、次により行うものとする。
都道府県(又は市町村)は、別紙1の様式による申請書を作成し、別に指示する期日までに地方厚生(支)局長に提出するものとする。

(変更申請手続)

- 9 この交付金の交付決定後の事情の変更により申請の内容を変更して追加交付申請等を行う場合には、8に定める申請手続に従い、別に指示する期日までに行うものとする。

(交付決定までの標準的期間)

- 10 この交付金の交付の決定までの標準的期間は、次のとおりとする。
地方厚生(支)局長は、8又は9による申請書が到達した日から起算して原則として2月以内に交付の決定(変更交付決定を含む。)を行うものとする。

(実績報告)

- 11 この交付金の事業実績報告は、次により行わなければならない。
都道府県(又は市町村)は、別紙2の様式による報告書に関係書類を添えて、事業の完了の日から起算して1月を経過した日(7の(2)により防災・減災等事業整備計画の中止又は廃止の承認を受けた場合には、当該承認通知を受理した日から起算して1月を経過した日)又は翌年度4月10日のいずれか早い日までに、地方厚生(支)局長に提出して行わなければならない。
なお、事業が翌年度にわたるときは、この交付金の交付の決定に係る国の会計年度の翌年度の4月30日までに、別紙4の様式による報告書を地方厚生(支)局長に提出して行わなければならない。

12~13 (略)

別紙1 (略)
別紙(2)-1 (略)

別紙(1)-2

(元号) 年度地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金申請額算出内訳

施設名・事業名等	設置主体	総事業費	対象経費の 算入期間	A	B	C	D (A-C)	E	F	G	H	(単位:円)
				総事業費	寄付金その他 の算入額	差引額 D (A-C)	BとDを比較して 少ない方の額	BとDを比較して 少ない方の額	基準額	EとFを比較して少ない 方の額×交付率	交付金 所要額	振当額設定 の有無
現存の小規模高齢者施設等のコンクリート造等改修事業												10/10
認知症高齢者グループホーム等認知症対応型支援事業												10/10
認知症高齢者施設等入居に 必要 高齢者施設等 の 整備事業												1/2
認知症高齢者施設等入居に必要 高齢者施設等 の 整備事業												1/3
高齢者施設等の非営利自家発電設備整備事業												1/2
高齢者施設等の非営利福祉化事業												1/2
高齢者施設等の非営利設備整備事業												1/2
高齢者施設等の 福祉 福祉化整備事業												1/2
高齢者施設等 の 福祉化整備事業												10/10
合 計												

(注1) 交付金所要額は、各施設ごとの所要額を記入すること。
 (注2) G欄は、EとF欄の値を比較して少ない方に交付率を乗じて算出額を記入すること。
 (注3) H欄は、EとF欄の値を比較して少ない方に交付率を乗じて算出額を記入すること。
 (注4) 振当額設定の有無は、補助期間中に非営利施設整備が実施される場合は「有」を記入すること。

別紙2 (略)
 別紙(2) - 1 (略)
 別紙(2) - 2

(元号) 年度地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金申請額算出内訳

施設名・事業名等	設置主体	総事業費	A	B	C	D (A-C)	E	F	G	H	(単位:円)
			総事業費	対象経費の 算入期間	寄付金その他 の算入額	差引額 D (A-C)	BとDを比較して 少ない方の額	基準額	EとFを比較して少ない 方の額×1/2	交付金 所要額	振当額設定 の有無
現存の小規模高齢者施設等のコンクリート造等改修事業											
認知症高齢者グループホーム等認知症対応型支援事業											
認知症高齢者施設等入居に 必要 高齢者施設等 の 整備事業											
認知症高齢者施設等入居に必要 高齢者施設等 の 整備事業											
高齢者施設等の非営利自家発電設備整備事業											
高齢者施設等の非営利福祉化事業											
高齢者施設等の非営利設備整備事業											
高齢者施設等の 福祉 福祉化整備事業											
高齢者施設等 の 福祉化整備事業											
合 計											

(注1) 交付金所要額は、各施設ごとの所要額を記入すること。
 (注2) 交付金所要額には、施設ごとの規模を記入すること。
 (注3) 交付金所要額には、施設ごとの規模を記入すること。
 (注4) 振当額設定の有無は、補助期間中に非営利施設整備が実施される場合は「有」を記入すること。

別紙2 (略)
 別紙(2) - 1 (略)
 別紙(2) - 2

(元号) 年度地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金精算額算出内訳

施設名・事業名等	設置主体	総事業費	対象経費の 実支出額	寄付金その他 の収入額	差引額 D (A-C)	EとFを比較し 少ない方の額 ×交付率	交付金 所要額	交付金 交付決定額	交付金 受入済額	差引額 △不足額 K (J-H)	振当額設定 の有無	(単位：円)
居宅の小規模高齢者ケアセンター設備等整備事業												交付率
												10/10
認知症高齢者グループホーム設備等整備事業												10/10
												10/10
社会福祉協議会等による「認知症高齢者グループホーム」整備事業												1/2
												1/2
認知症高齢者グループホーム整備事業												1/3
												1/3
高齢者施設等における自立支援型認知症ケア事業												1/2
												1/2
高齢者施設等における自立支援型認知症ケア事業												1/2
												1/2
高齢者施設等における自立支援型認知症ケア事業												1/2
												1/2
高齢者施設等における自立支援型認知症ケア事業												10/10
												10/10
合 計												

(注1) 交付金所要額は、事業ごとに申請額を記入すること。
(注2) G欄は、EとFのいずれか少ない額に交付率を乗じて円換算した額を記入すること。ただし、F欄の金額がG欄の金額を上回る場合は、G欄の金額を記入すること。
(注3) H欄は、G欄の金額を上回る場合は、H欄の金額を記入すること。また、H欄の金額は、H欄の金額がG欄の金額を上回る場合は、G欄の金額を記入すること。
(注4) K欄は、H欄の金額を上回る場合は、K欄の金額を記入すること。また、K欄の金額は、K欄の金額がH欄の金額を上回る場合は、H欄の金額を記入すること。

(元号) 年度地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金精算額算出内訳

施設名・事業名等	設置主体	総事業費	対象経費の 実支出額	寄付金その他 の収入額	差引額 D (A-C)	EとFを比較して少 ない方の額	EとFを比較し 少ない方の額 ×1/2	交付金 所要額	交付金 交付決定額	交付金 受入済額	差引額 △不足額 K (J-H)	(単位：円)
居宅の小規模高齢者ケアセンター設備等整備事業												
認知症高齢者グループホーム設備等整備事業												
社会福祉協議会等による「認知症高齢者グループホーム」整備事業												
認知症高齢者グループホーム整備事業												
高齢者施設等における自立支援型認知症ケア事業												
高齢者施設等における自立支援型認知症ケア事業												
高齢者施設等における自立支援型認知症ケア事業												
合 計												

(注1) 交付金所要額は、事業ごとに申請額を記入すること。
(注2) 交付金所要額は、居住の小規模高齢者ケアセンター設備等整備事業、認知症高齢者グループホーム設備等整備事業、認知症高齢者グループホーム設備等整備事業、認知症高齢者グループホーム設備等整備事業については、E欄とF欄の額を比較して少ない方の額を記入すること。
ただし、1,000円未満の金額が生じた場合は、これを0円とみなして記入すること。
(注3) 交付金所要額は、社会福祉協議会等による「認知症高齢者グループホーム」整備事業、認知症高齢者グループホーム設備等整備事業、認知症高齢者グループホーム設備等整備事業、認知症高齢者グループホーム設備等整備事業については、G欄の金額を記入すること。
また、G欄の金額は、G欄の金額がH欄の金額を上回る場合は、H欄の金額を記入すること。
(注4) H欄の金額は、H欄の金額がG欄の金額を上回る場合は、G欄の金額を記入すること。
(注5) K欄の金額は、K欄の金額がH欄の金額を上回る場合は、H欄の金額を記入すること。

別紙 4 (略)
別紙 4 - (1) (略)
別紙 5 (略)

別紙 4 (略)
別紙 4 - (1) (略)
別紙 5 (略)